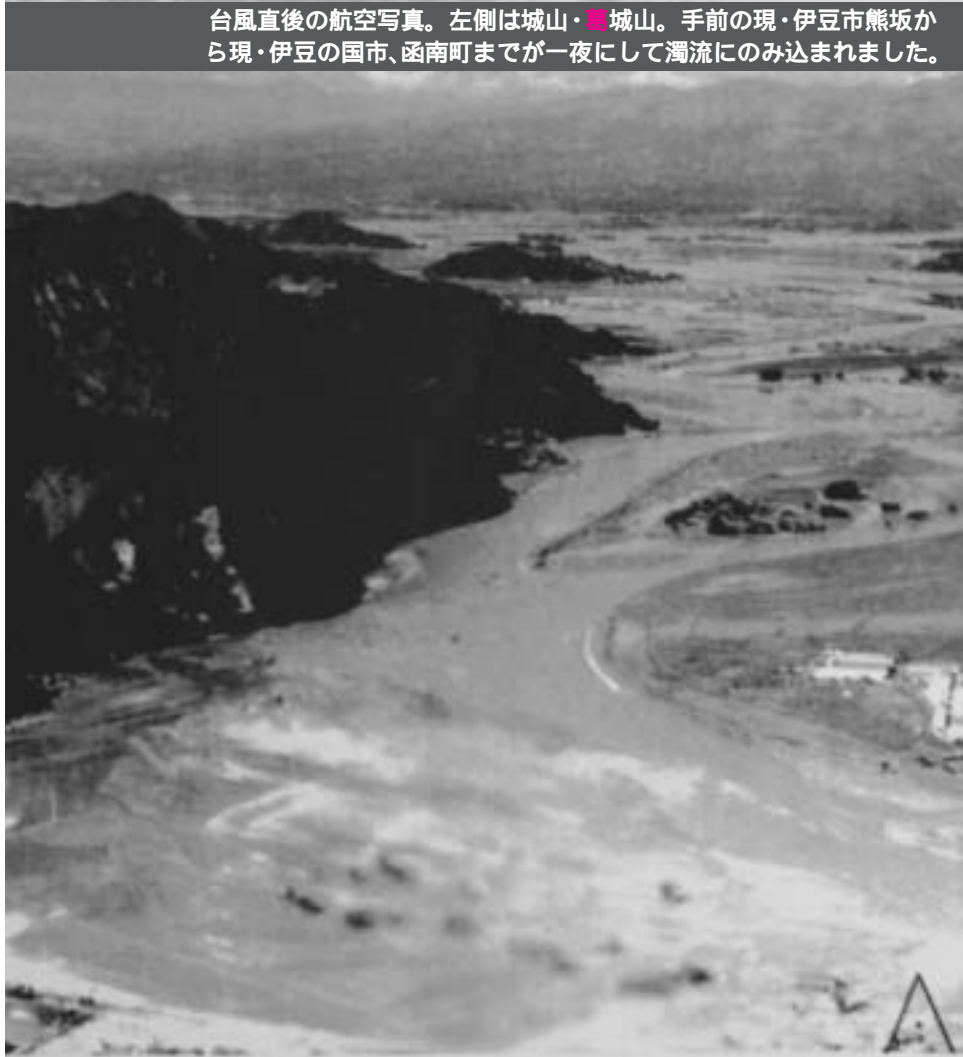


わたしたちは忘れない

特集 狩野川台風から五十年

五十年前、伊豆を襲った大災害を知っていますか？
その台風は、被災した人にとっては悪夢の記憶、
しかし、未来の子どもたちにとっては貴重な教訓。
今こそもう一度、狩野川台風を胸に刻みましょう。



台風直後の航空写真。左側は城山・城山。手前の現・伊豆市熊坂から現・伊豆の国市、函南町までが一夜にして濁流にのみ込まれました。

昭和三十三年（一九五八年）
九月二十六日、最大風速七五、中心気圧八八〇ミリバール（ヘクトパスカル）という、かつてない大きさの台風が伊豆半島を直撃しました。昭和三十三年台風二十一号（国際名…Ida）、のちに狩野川台風と呼ばれる超大型台風です。
この台風は、伊豆半島に多くの雨を降らせ、恐ろしい被害をもたらしました。その猛威を順を追って振り返ってみます。

まず、狩野川台風来襲の一週間前に、台風二十一号が来襲していました。このとき伊豆半島（特に天城山系）に多くの雨が降ったことで、山崩れの条件がある程度満たされたと言えます。

そして、運命の九月二十六日。台風二十二号（狩野川台風）の来襲により朝から降っていた雨は徐々に強まり、台風が最も接近した二十六日夕方から豪雨とな

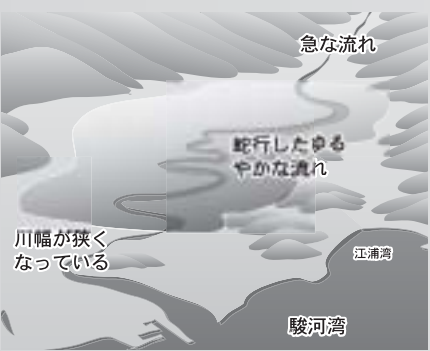
狩野川はこんな川
狩野川は、伊豆半島のほぼ中央にそびえる天城山系の万三郎岳を源に、いくつもの小さな川の流れを集めながら駿河湾に注ぐ川です。上流部ではワサビ栽培の名所、中流部では鮎釣りのメッカとして栄え、清らかな流れで人々に親しまれる狩野川ですが、その反面、昔は『暴れ川』と呼ばれ、洪水の起きやすい川として有名でした。



水害はなぜ起る

なぜ、狩野川は水害が起きやすいのでしょうか？

それは、この辺りの山が急で険しいため、大雨が降ると雨水がいく筋もの谷を一気に駆け下り、すり鉢状のふもとに集まるからです。そして川の形状にも問題があります。狩野川は、中流部で川が蛇行し、さらに下流部では川幅が狭く水が



流れにくいところがあるため、手前で水が堤防から溢れ出してしまつたのです。

また地質上の問題もあります。伊豆の山々はもともと、火山の噴火によってできたものであるため、地質が弱く、山くずれによって土砂が流れ出すため、水害が起きやすいのです。

狩野川台風の規模

中心付近最大風速 75 m
最低中心気圧 880 ミリバール
（現在の単位はヘクトパスカル）
連続雨量（天城湯ヶ島）739 mm

被害状況

死者・行方不明者 約930人
（狩野川流域市町村では853人、
現・伊豆の国市内では290人）
全壊・流出家屋 約1,300戸
半壊家屋 約1,000戸
床下・床上浸水 約15,000戸
被害総額（当時） 約206億円

参照：映画 狩野川台風30年（建設省中部地方建設局 沼津工事事務所企画）
パンフレットレッツゴー！狩野川（社団法人中部建設協会沼津支所発行）ほか

狩野川台風の経路図(右)と
狩野川流域の被害箇所図(下)



そして洪水の被害は
伊豆の国市へ(次ページ)



熊坂
伊豆市熊坂は流域中
も被害が大きかった地区



濁流で修善寺橋が流出



もとは山が
あった部分

伊豆市筏場では山が
真つ二つに割れました

りました。上流山地に降り注いだ豪雨は、約千二百カ所におよぶ崖くずれを発生させ、土石流を起しました。現・伊豆市筏場では山が真つ二つに割れました。土石流は狩野川に流れ込み、川を下ります。途中、橋にひっかかって止まるとダムのように水かさを増やし、限界点に達すると一気に橋を押し流します。二十一時五十分、ついに強固な鉄橋・修善寺橋を押し流し、そのすさまじいほどに荒れ狂った濁流は、下流の集落を次々と襲いました。現・伊豆市熊坂、現・伊豆の国市神島、中島、白山堂、南條、中條、南江間、原木、函南町塚本など、いたるところで堤防が決壊し、集落は次々と濁流にのまれていきました。

このような事態を夢にも思わなかった狩野川流域の集落は、一瞬にして阿鼻叫喚の地獄と化しました。多くの人々が家ごと、集落ごと、濁流とともに狩野川を流されていきました。

やがて夜が明け、水が退いたとき、残された人々が目にした驚くべき惨状は、死者・行方不明者約九百三十人（狩野川流域八百五十三人、現・伊豆の国市内だけでも二百九十人）にもおよび、未曾有の大災害だったのです。



温泉宿、八割が損
復旧遅ければ死活問題



上流から千歳橋に流れ着き、山のように堆積した倒木や家屋の破片



浸水の被害にあった伊豆長岡温泉

夜が明けて、水が退いたとき、
伊豆の国市(旧大仁町・伊豆長岡町・菰山村)の
平野部は、それまでの面影を残さないほどに
激変していました。



堤防決壊により家屋が跡形もなく流された南條付近



河川敷でくる日くる日も火葬された犠牲者の遺体

「おかあちゃん おかあちゃん。」
 「おーい、たすけてー。」などと声がある。(助けてやらない。でも私だってあぶない。)そのうちどこかの家が流れて来た。まず兄が乗った。子どもたちは無我夢中で移った。そのとき、家がまた流れだした。
 (中略)「助けてー。」
 と叫ぶ。(だめだ。どこまで流されていくのだろう。助かるだろうか?死ぬのだろうか?...いやだ、死ぬなんて...)
 (中略)長岡の橋(千歳橋)をくぐった。ものすごい波だ。「あっ。」「たすけ...」
 (もぐっている。屋根がひっくり返ったのだ。息がつかまる。これで死んでしまうのか。苦しい。上に出なければ...)
 あっ!助かったのだ。息ができる。苦しくない。
 「秋代ねえちゃん。」
 悦子(妹)だ。悦子がいる。
 (中略)(ああ流れがゆるやかになった。ここは水がぐるぐると回っているだけだ。もう流れないかもしれない...でもこの水がひけたら、海へ流れるだろう。そうしたらもう、私の大好きな音楽も聞けないだろう、歌をうたおう。私の生きている時の最後の歌を...)
 うさぎ追いし かの山...
 あっ、人がいる。あかりが見える。動いている。人の話し声が聞こえる。
 「助けてー。」
 「おーい、今行くぞうー。しっかりしているー。」
 それから数十分後私たちは仁田で助けられた。
 (当時中学3年 西島(旧姓)秋代さん)



台風22号
死者不明千人越す
狩野川一帯被害ふえる一方



上流部からの濁流は
堤防を壊し、集落の家々を押し流しました。
家は、人々を乗せたまま、
狩野川を流されていきました。



濁流の力であめのように曲がった大仁白坂付近の伊豆箱根鉄道駿豆線

伊豆 惨筆舌に盡せぬ
抱合つた母子の死体
牛山羊、トラ、三輪が轆



大仁橋付近では左岸堤防が決壊し、濁流は伊豆市熊坂へ

「あっ。」思わず驚きの声をあげた。家からむこうの山まで約500m水でうまっている。水のほかになにもない。「逃げよう。」だれかが言った。しかし土手まで15mぐらいの山のような波をとまなう川である。とても泳げない。そのうえ、流木がうずまきとともに流れている。向こうの土手に消防団の人たちがいる。みんなであるかぎりの声を出して叫んだ。「ロープを用意してくれー。」と言った。しかし雨と風で声がたたれる。なんども叫んだ。聞こえたらしい。「ロープはあるぞー。」とかすかに聞こえる。
 (中略)「落ち着いて最後までロープを離すでないぞ。」父がおこるように言った。ぼくは、落ち着くんだ、落ち着くんだと自分に言いかせてロープをにぎった。とぶ気なんだが体が動かない。勇気を出して窓をけた。もう目をつむってロープをたぐった。風と雨が体の自由をうばう。足はもっこに立っているだけだから不安定でぐらぐらする。足腰が水につかかってしまった。(中略)流木が体にあたることはわかるが痛いとは感じなかった。
 (中略)「がんばれ。」「離すな。」という声が響いてくる。(中略)ロープを無我夢中でたぐった。岸の近くになると流れがゆるくなったので、力を抜くと足が土手についた。足を土手にかけ最後に思いきって綱を引くと力あまって水をあびた。ぼくの手を消防団の人たちが引っぱってくれた。そしてその時助かったという気がおきた。(当時中学2年 谷口隆太さん)



家屋が流出した白山堂・御門付近。写真右上に見えるのは半壊した大門橋

野天の火葬場で焼香
岸首相伊豆災害地を視察

*このページの体験談は、田方郡教育研究会・静岡県出版文化会共編『狩野川台風子どもたちの記録』に掲載された文章から、ご本人の許可を得たものの一部分を抜粋し、掲載しました。

あの悲劇から五十年、
 狩野川が二度と暴れないように
 行政と流域の人々は力を合わせ、
 狩野川を変えていきました。



【上流部】狩野川台風の水害の根源となった山崩れや土石流をくい止めるため、上流部には数多くの砂防施設が作られました。写真は伊豆市の地藏堂第3砂防えん堤(上)と梅木第4砂防えん堤(左)



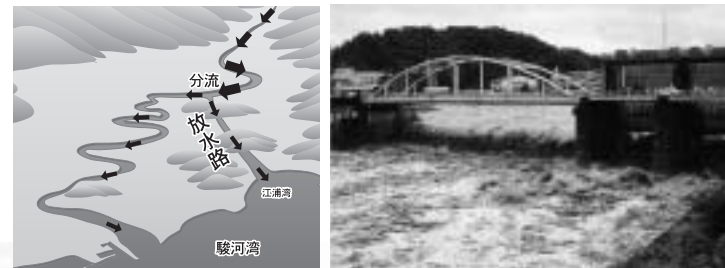
【中流部】台風以前よりも川幅が広げられ、頑丈になった大仁橋～大門橋付近の堤防(右)
 蛇行した河道がショートカットされた白山堂・神島地区と江間堰が撤去された天野地区(下)



国土交通省中部地方整備局沼津河川国道事務所伊豆長岡出張所屋上より撮影



【狩野川放水路】狩野川台風以前の昭和25年から着工していた放水路も、台風の後、トンネルを2本から3本に増やし、断面も拡大するなど計画を大幅に変更しました。そして地元住民の理解や協力を得て、総延長2,980mの大水路は昭和40年に完成しました。



【情報収集】流域各所に設置した無人観測所で雨量・水位を観測、ライブカメラ(左)でも川の状態を常時監視しています。

パソコン・携帯であなたもチェック!

国土交通省リアルタイム川の防災情報(雨量・水位)
 (パソコン) <http://www.river.go.jp/>
 県サイボスレーダー(雨量・水位)
 (パソコン) <http://sipos.shizuoka2.jp/>
 (携帯電話) <http://sipos.shizuoka2.jp/m/>
 国土交通省狩野川ライブカメラ(川の画像)
 (パソコン) <http://mlit-numazu.go.jp/>

【内水対策】狩野川が支川へ逆流することや内水氾らんを防ぐため、ひ管(右上)や、排水機場(右下)を設置。操作は地元消防団や操作員が行います。



狩野川資料館へGO!

狩野川放水路近くの国土交通省伊豆長岡出張所敷地内に、『狩野川資料館』があります。これは、狩野川台風の記録を後世に伝えるとともに、狩野川水系で実施している河川・砂防事業の重要性を多くの人に伝えるための施設です。

資料館では、狩野川について詳しい知識をもつガイドボランティアの皆さん(写真)のお話を聞いたり、狩野川台風や昔の狩野川に関する貴重な写真、ビデオを鑑賞したりできます。皆さんもぜひ一度、訪ねてみてください。



ガイドボランティアの皆さん(右から3人)と伊豆長岡出張所長(左)

入場料 無料
開館日 月～金曜日
 (祝祭日を除く)
 十時～十六時

*団体による見学の場合は、事前に日時・人数等をお知らせください。
 電話055(934)2009

このような五十年以上にわたる人々の努力によって、狩野川はより安全な川になってきたのです。

また、市街地を流れ狩野川に注ぐ各支川にはひ管や排水機場を設置して、逆流や内水氾らんが起きないように、地元の消防団員や操作員などがゲートを操作しています。

また狩野川台風当時は、水防体制が十分でなかったと同時に、情報不足が大きな災害を招いた原因の一つであったと言われています。現在、国土交通省沼津河川国道事務所や県沼津土木事務所では、流域や支川の雨量・水位を観測したり、ライブカメラで川の状態を監視することで、一定の雨量に達したときに適正な水防対策を行っています。

中流部では、川幅が広げられ、堤防も頑丈なものに作り替えられました。また、氾らんの主な原因となった蛇行部分のショートカット工事や、江間堰の撤去工事が、地域の協力を得て実施されました。

さらに、台風以前から着工していた狩野川放水路も、計画を大幅に変更し、計流量を二倍にして、十五年の月日と六十六億円を費やし、昭和四十年に完成しました。これにより狩野川の洪水を分流し、江浦湾に放流することになりました。

あの悲劇の狩野川台風以来、狩野川が二度と暴れないことのないよう、さまざまな工事や対策が行なわれてきました。

上流部では、たとえ山が崩れても土砂をくい止め、下流に行かないようにする砂防えん堤(ダム)が作られました。

狩野川台風から半世紀が経過しました。あの悲惨な水害を知らない世代や、遠い記憶の彼方に忘れてしまった人が増えているのではないのでしょうか。

五十年という時間の中で、あの水害の教訓は人々の意識から薄れてしまい、「もう狩野川は氾らんしない」と人々は安心して見えます。

しかし、本当に安心してよいのでしょうか？

近年の地球温暖化による異常気象は、どんな災害を引き起こすか全く予想ができないし、川と隣あわせて暮らす以上、水害が絶対に起こらないという保障はありません。

いざというとき水と戦うのは、そこに暮らす人たち自身なのです。

悲惨な水害は、貴重な体験であり、未来への教訓でもあります。

狩野川台風の体験を語り継ぐこと、そして、流域に住む一人ひとりが、水防を自分の問題として考えること、それが、有事の際の被害を最少限に抑える力となります。

私たちは、狩野川台風を忘れない。

そして、

水害は二度と起こさない。
五十年目の節目に、
みんなで強く決意しましょう。



自分たちの力で、水害を最小限に抑えることが大切です。各地区の自主防災会と消防団は、毎年、水防訓練を実施し、土のうの作り方、積み方を学んでいます。



白山堂の勝村吾一さんは、狩野川台風を後世に伝えるため、昭和56年に『狩野川台風と白山堂』を、今年8月に『狩野川台風より50年(半世紀)』を自費出版しました(いずれも中央図書館で閲覧できます)。



長岡演劇サークル『劇団DAN』は、4年前に狩野川台風をテーマにした演劇を初公演。50年目の今年も、8月24日に伊豆市修善寺総合会館にて『狩野川台風』を公演しました(写真は4年前の舞台)。

8月3日の『葦山狩野川まつり』では毎年、台風の犠牲者への慰霊供養が行われます(右)。また夜の花火打ち上げ(下)の前には、会場の全員が黙とうを捧げます。



狩野川台風50年事業の一環として、千歳橋のもとに、市内在住の彫刻家・鈴木丘さんによる狩野川台風の慰霊モニュメントを設置します。慰霊式典と同じ9月21日(日)に完成披露します。



参加自由

狩野川台風 慰霊式典

とき 九月二十一日(日) 午前十時
ところ アクシスカつらぎ



狩野川台風の記憶と教訓を風化させることなく胸に刻むため、狩野川台風五十年事業の慰霊式典を開催します。狩野川台風を経験した人も、狩野川台風を知らない人も、誰でも自由にご参加ください。申し込みは不要です。会場では、当時の様子を伝える貴重な写真や映像もご覧いただけます。

(台風被災で亡くなった人のご遺族には式典の案内をしています。案内が届かない場合は、ご連絡ください。)

問合せ 福祉課
電話0558(76)8006

参考資料

今回の特集記事の参考にした資料です。狩野川台風をもっと詳しく知りたい人は、ぜひ一度ご覧ください。

【文献】

- 狩野川台風誌 付昭和36年集中豪雨 (田方郡教育研究会編)
- 狩野川台風 子どもたちの記録 (田方教育研究会・静岡県出版文化会共編)
- 狩野川台風40年 (大仁町教育委員会編)
- 狩野川台風と白山堂
- 狩野川台風より50年(半世紀) ~伊豆の国市白山堂を中心に~ (ともに勝村吾一著)

【パンフレット】

- レッツゴー! 狩野川 (社団法人中部建設協会 沼津支所発行)
- かのがわさぼうたんけんちず 狩野川流域の歴史と人々の暮らし 狩野川治水75年のあゆみ (いずれも国土交通省中部地方整備局 沼津河川国道事務所発行)

【映像】

- 映画・狩野川台風
- 映画・狩野川台風30年
- 映画・狩野川放水路 (いずれも建設省中部地方建設局 沼津工事事務所企画)
- * 上記資料が閲覧できる施設
 - 狩野川資料館
 - 中央図書館

【写真・資料提供】

- 山川信行氏
- 勝村吾一氏
- 国土交通省中部地方整備局 沼津河川国道事務所調査第1課
- 社団法人静岡県出版文化会 狩野川資料館 ほか